

絵本のように読みやすく、心に残る総合計画

前回の総合計画より10年、加速する人口減少と社会的な変化を前に、次の10年を策定するにあたって、今まで以上に市民と行政の共創、協働が必要とされる時代となりました。雲南市は、町づくりに対して市民意識が高い地域であるものの、総合計画策定のために行われたワークショップの中では、そうした活動を知らない、情報が届いていない市民がいることも指摘されています。

この度、雲南市総合計画のデザインを行うにあたって、これからの未来を担う小・中・高校生をはじめ、より多くの市民を巻き込むとともに、“誰一人取り残さない”という願いを込め、行政文書から市民目線に大きく舵を切った《絵本のように読みやすい総合計画》をデザインのコンセプトとしました。

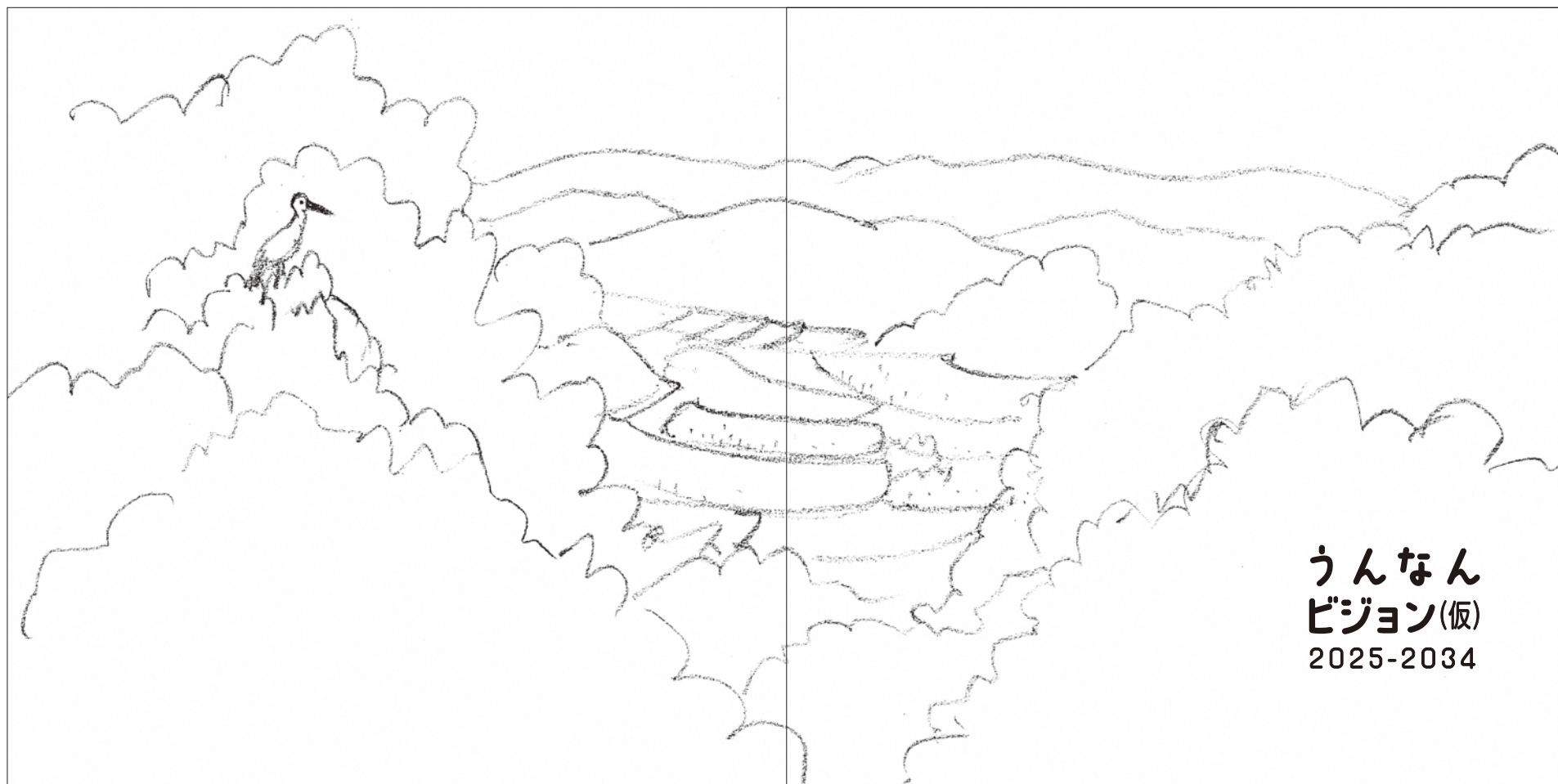
今まで検討されてきた内容をひとつのストーリーに載せることで、1ページ、さらに1ページと思わず読み進めてしまい、多くの人にとって分かりやすく、《心に残るもの》となるように検討していきたいと考えます。



コウノトリの目線でストーリーを紡ぐ

雲南市総合計画を「絵本のように読みやすく、心に残るもの」にするために、雲南市を訪れ、子育てを続けるコウノトリの目線を借りて、ストーリーを展開させることを考えました。変化が激しく、自然災害の多いこの時代の総合計画をつくるにあたって、多くの人が幸福や未来への希望を感じさせるコウノトリの存在は、明るい未来を感じさせる一翼を担うものとなってくれるのではないのでしょうか。

また、コウノトリを総合計画のナビゲーターとしてストーリーを進めることによって、主観的に見えがちな町の魅力を客観的な視点で伝えることができます。さらに、この度のワークショップでもキーワードとして多くの市民が語った“多様性”を総合計画全体のテイストから感じることができるようになると考えます。



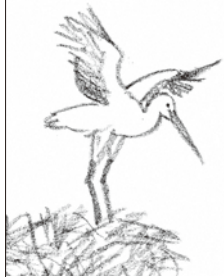
うんなん
ビジョン(仮)
2025-2034

仕上がりサイズ：A4 変形・正方形 (210mm×210mm)



ぼくは、コウノトリ。
いろいろな国のいろいろな町を旅して、
ぼくの家族がしあわせに暮らせる町を探してきた。
ぼくたちは、ずっと昔から人間の近くに暮らしてきたんだ。
人間の近くは、だいたい見晴らしもよくって
敵が来るのもよくわかるし、
なんといっても田んぼがあって、
そこには生き物が沢山いてご飯にも困らない。
最近はそのな“ちょうどいい”ところが
なかなか探しても見つけられなかった。
そんなとき、ぼくはこの町を見つけたんだ。

雲南市に来たコウノトリは、東北から九州、四国、さらには朝鮮半島にも渡って各地で滞在した後、雲南市で巣づくりを始めたことが、個体につけられた発信機によって解明されています。



昨年(2023年)春から、市役所やそれぞれの地域の交流センターに、若い人や高齢の人、職業もいろいろな人たちが何度も何度も集まって話し合いがされてきた。なにやら、これからどんな町にしていくのか

10年に一度更新される 大きな計画

がつくられていたんだ。

- キックオフフォーラム
- 現状把握／市内視察
- まちづくりワークショップ
- 先進地視察(西粟倉村)
- 基本構想の検討ワークショップ
- 基本構想の検討ワークショップ
- 基本構想素案のまとめ
- タウンミーティング

将来像

10年後の雲南市の目指す姿、
つくりたいまちの姿

00頁

施策ごとの指針・目標

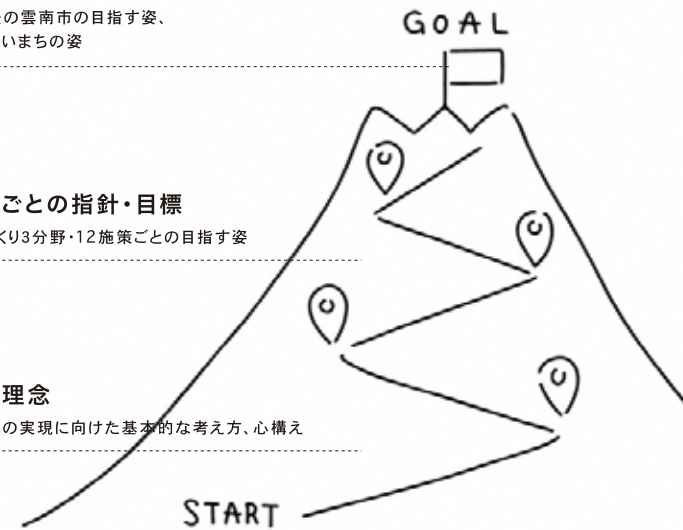
まちづくり3分野・12施策ごとの目指す姿

00頁

基本理念

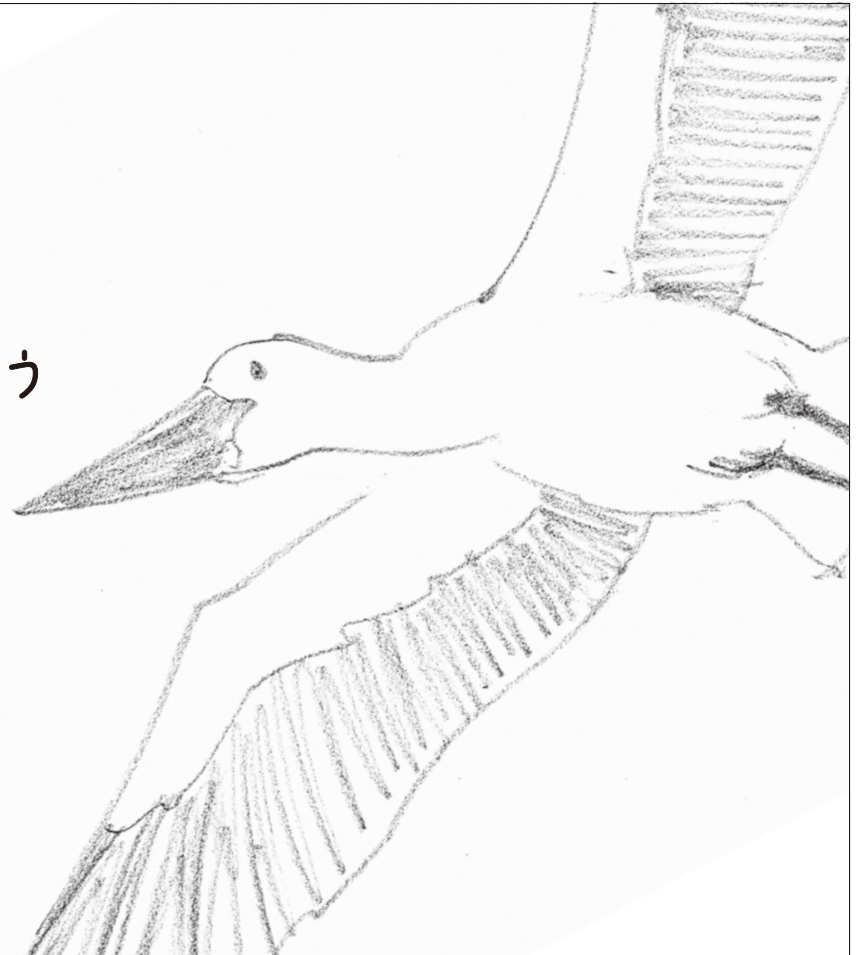
将来像の実現に向けた基本的な考え方、心構え

00頁



10年後、ぼくたちは どんな世界の空を飛んでいるんだろう

10年後の計画って、どんな感じなんだろう。
コウノトリの寿命は、30年※くらいって言われているから、
10年後はまだぼくも大空を飛んでいた。
人間の計画は、ぼくたちにとってもすごく重要なこと。
昔、ぼくたちが日本の空を飛べなくなったときのようなことも起きるから。
「変化が早て、ついていけんわ〜」って
田んぼでおばあさんが言っていた。
変化が早くて、どんな感じなんだろう……。



基本理念



変わらず、変える。

人と人がつながるあたたかなコミュニティ、人と自然が調和した里山の暮らし、神話の時代から連綿と続く豊かな歴史など。私たちが先人から引き継いだ雲南市の恵みを、今後も変えることなく、未来へつないでいくことが今を生きる私たちの責務です。

雲南市を取巻く社会の姿が大きく、早く変化する中、私たちが雲南市の恵みを守るためには、前例にとらわれない新しい発想で、変えるべきものを変えていくことが求められます。

変わらず、守ること。そのために勇気をもって自らを変えること。

この二つを今後のまちづくりにおける基本となる考え方、大切にする姿勢に定めます。

変わらず、変えるためのおさらい

自然との共生による生業づくり

雲南市にはヤマタノオロチ伝説で知られる斐伊川が流れ、各地に神話や伝説、神楽などが伝承されており、加茂岩倉遺跡や神原神社古墳をはじめとした多くの遺跡や古墳が発掘されています。

古くから斐伊川の支流周辺の低地では農耕が営まれ、山間地ではたたら製鉄や炭焼きがさかんに行われてきました。江戸時代から近世にかけては製鉄業で栄え、その中心地である吉田町では、往時の面影を残す貴重な建造物や街並みが残っています。



ステージ1

地域自主組織を基盤とする協働の仕組み

雲南市は、大東町・加茂町・木次町・三刀屋町・吉田村・掛合町の6町村が合併して平成16年11月1日に誕生しました。

新市の誕生と同時に策定した「第一次雲南市総合計画」では、「生命(いのち)と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」をまちづくりの理念に掲げ、ふるさとが継承してきた恵みを更に磨き高め、交流を盛んにしていこうとまちづくりに踏み出しました。

この10年間で、地域自主組織を単位として、自らの地域は自らの手でよくしていこうとする地域づくりの仕組みが進展しました。



ステージ2

チャレンジの風土・文化づくり

平成27年には、令和6年度までの10年間のまちづくりの目標と方向性を示す「第2次雲南市総合計画」を策定しました。基本理念の実現に向け、「課題先進地から課題解決先進地」になることを目指し、「人口の社会増」への挑戦をスタートしました。

平成31年に「雲南市チャレンジ推進条例」を定め、子どもから大人まで、様々な主体によるチャレンジがつながり、互いに影響し合いながら拡大する、「チャレンジの連鎖」が生まれるまちの実現を目指してきました。



将来像

えすこな 雲南市

「えすこ」は、雲南市の方言で「ちょうどよい状態」のこと。
核家族化、少子化、都市化の進展などにより、社会の孤立化・分断化が進む中、雲南市には人と人、人と自然、世代と世代がえすこにつながる豊かさがあります。
今だけ、自分だけ、人間だけではなく、みんなにとっての「えすこ」な状態があふれるまちの実現を目指し、「えすこな〇〇雲南市」を目指す将来像に掲げます。

近所のあたたかな縁側



イキイキと自分らしく
生きている大人



キラキラ
輝いている

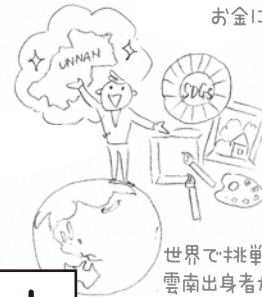
雲南市から日本全国、世界の
仕事ができる



えすこに
おせっかい



好きなことや社会貢献が
お金になる



世界で挑戦した
雲南出身者が
地元貢献している

動物、神様、ご先祖
大きな机でみんなでごはんを
食べている



えすこに暮らす

出会えるまち



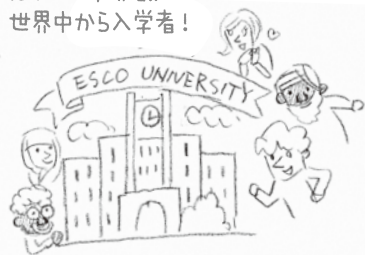
一人暮らしでも
安心して暮らせる



安心な
暮らしが
続く



えすこ大学開設
世界中から入学者!



子供が川遊びや
芋掘りをしている



保育留学・
都会地より
田舎の中で
体験留学

おじいちゃん、おばあちゃんも
父さん、母さん、孫も
いこいの場で一緒に。



えすこに 育む

おじいちゃん、おばあちゃんと
高校生、大学生と一緒に起業



お年寄りの学校



一戸建てで、となりに農園で
野菜づくり



ひとり
ひとり



エネルギー、農業、里山、水、自然が巡っている



食料自給率
100%



文化の継承ができる



スマホなどのデジタル化をいやす自然の中で過ごすように整備する



旅人の聖地!

えすこに 生み出す



ロボットやドローンで農作業、害獣対策



外国人観光客が訪れるまち



スポーツ大会に参加する選手、スタッフ、応援者のみんなが楽しんでいる



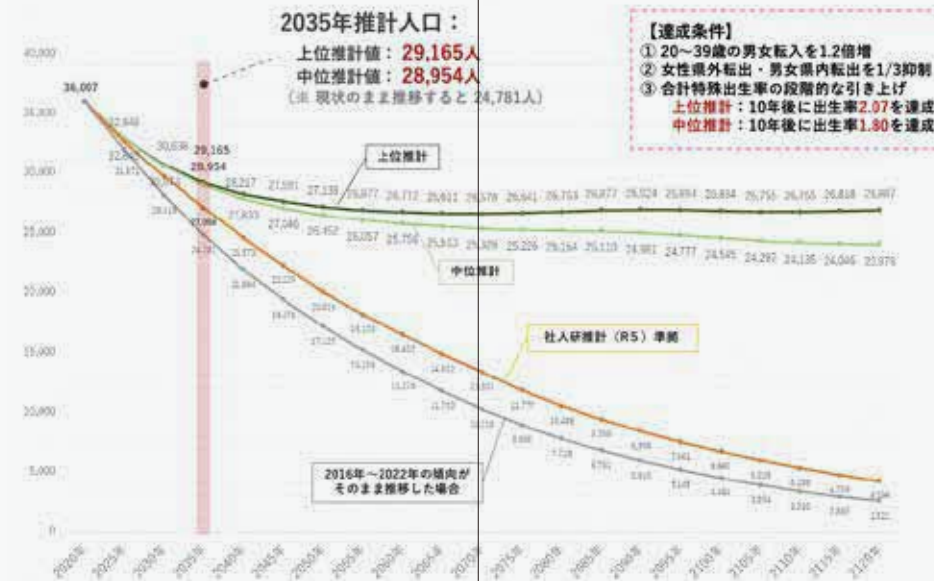
みんなが笑顔

「えすこな雲南市」の実現に向けた取り組み

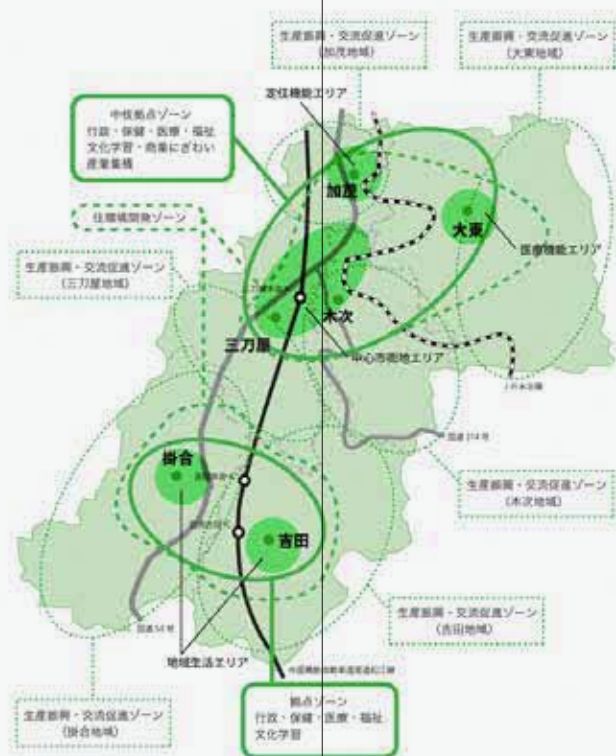


人口ビジョンの素案

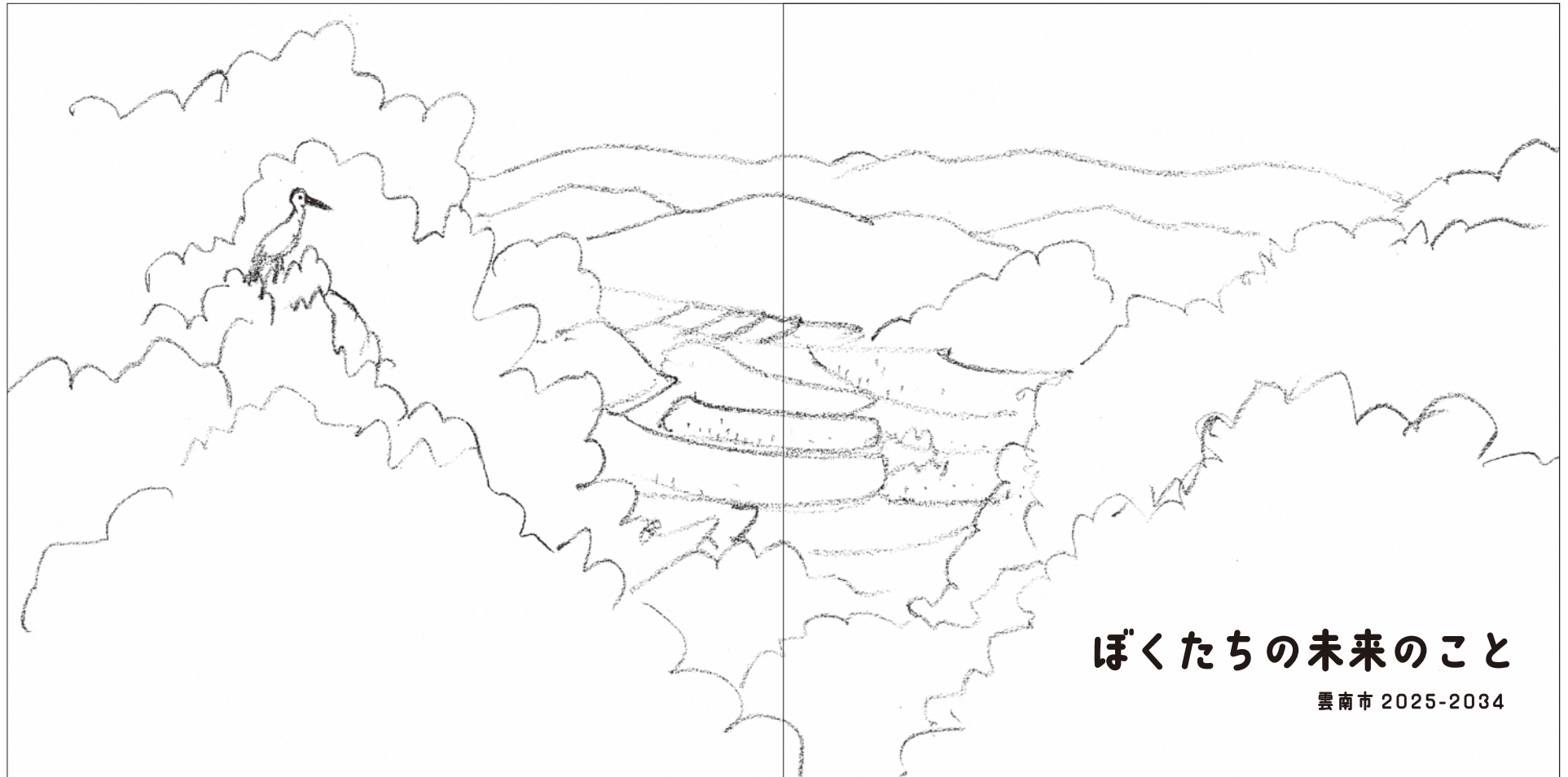
人口減少をゆるやかにし、将来にわたって安定した市民生活を維持するため、若い世代の人口増と出生数の回復を図り、バランスのとれた人口構造をめざします。



将来のまちの姿(土地利用ビジョン)



ネーミング案2



ぼくたちの未来のこと

雲南市 2025-2034